

主な質問と答弁の要旨

黒岩 千泰 議員

Q1 人口減問題について

少子化

問 八百津町の人口は本年5月末で1万1525人、平成27年の出生者は59人です。国立人口問題研究所の調べでは、当町の人口は2100年には、限りなく0人に近くなると言われている。そこで、この人口減少問題に対して町はどのように考えているのか伺う。

答 (青山総務課長)

議員ご指摘のとおり、当町の人口は年々減少し、生産年齢人口及び年少人口は長期にわたって減少傾向にあり、少子高齢化は今後一層本格化することを前提に施策を考慮していくことが必要となります。

本年3月に策定しました「八百津町人口ビジョン」では、将来人口の推計については、国立社会保障・人口問題研究所による推計や日本創生会議による推計を参考に独自の推計を行い、今後、まち・ひと・しごと創生

総合戦略や今年度策定します第5次総合計画などに基づく各種施策が実現し、その効果が現れ、地方創生が進展することを期待して、2040年の目標人口を8,953人、2060年の目標人口を7,536人としています。

現在、町は、中学生までの医療費の無料化や保育料の見直しによる軽減などの子育て支援策をはじめ、結婚相談の充実、移住定住につながる空き家バンクの充実、杉原千畝氏の人道精神を受け継ぐ教育の充実や世界記憶遺産登録申請などに関連する各種イベント行事等の開催、地域おこし協力隊や協働のまちづくり事業補助金の活用など、官民で協働してのまちづくり事業、こうした諸事業・施策に力を入れており、これらが魅力あるまちにつながり、長期的に見て若者の移住定住や人口減対策につながるものと考えています。

さらに今後につきましては、再生可能エネルギーを活用した事業の展開や新丸山ダム建設事業（仮称）伊岐津志トンネルの開通など、当町の将来に向けてのさまざまな環境の変化を的確に捉えながら、取り組んで参

りたいと考えています。

問 長野県箕輪村では、人口問題に取り組み、25年間で1.5倍に人口が増えたとの新聞記事がありました。条件はことなるが、八百津町でもビジョンをもって人口問題に真剣に取り組み、人口の増加も夢ではない、人口問題は、八百津町の将来に関わる大切な問題である八百津町の人口に対する考え方を今一度伺う。

答 (金子町長) 八百津町の未来に対する人口ビジョンについては、人口がある程度減少することは避けられないと考えており、私としては、「人口が減っても活力のあるまちづくり、協働でつくるまちづくり」を目指して、進めたいと思っています。

また、現在策定中の第5次総合計画におきましても、向こう8年間の目指すべき将来像や基本目標、基本計画を策定しますの



館林 久宜 議員

Q1 大規模地震による上水道断水時の対応について

大規模地震時の水道について

問 熊本地震では、最大震度7と揺れが激しかったこと、断層のずれが大きかったことから、水道管の損傷がひどく、1ヶ月以上にわたり断水が続いた地域がある。その中でも、西原村では正確な水道管敷設の地図が存在せず、復旧を大幅に遅らせたと聞く。また、耐震水道管の導入割合も全国平均で36%程度、熊本県内では25%程度、西原村では20%以下である。そこで、八百津町においては水道管敷設の正確な地図は完備されているか、また、耐震性能の高い水道管の割合はどの程度か伺う。

答 (額瀬水道環境課長)

当町では、八百津町上下水道システムデータ整備委託業務として、毎年更新作業を行っています。これは、GISジョグラフィック・インフォメーション・システム（地理情報システムの更新データを落とし込み、成果として、水道環境課内にあるモニター画面にて、上下水道の配管位置図などを見ることができ、管の種類、口径、埋設位置

や深さ、施工年度などが、情報としてわかるようになっていきます。

次に、耐震性能の高い水道管の割合についてですが、議員の示された数字は、厚生労働省発表の「水道事業における耐震化の状況（平成26年度）」からのものと思われる。この算定方法を八百津町に当てはめると61.1%となります。これは、東日本大震災以降に水道施設等の耐震化等関連事業が交付金対象事業となり、上飯田浄水場整備に伴う導水管、送配水管敷設や災害時重要拠点への配水確保するためライフライン機能強化等事業費にて、和知配水池から避難所となっている和知センターに向けて敷設したことなどが、当町の耐震適合率を高めている要因となっています。今後

問 大規模地震などで水道が断水したときには、行政とし